

# 平成 28 年度東北ブロック共同研究 調査報告書

○研究テーマ

## 施設実習指導の実際に関する調査研究

○研究チーム 全国保育士養成協議会 東北ブロック・平成 28 年度研究委員会

委員長	三浦 主博 (東北生活文化大学短期大学部)
委員	時本 英知 (青森中央短期大学)
委員	竹之下 典祥 (盛岡大学)
委員	瀬尾 知子 (秋田大学)
委員	大迫 章史 (仙台白百合女子大学)
委員	福田 真一 (東北文教大学)
委員	細川 梢 (郡山健康科学専門学校)
委員	石森 真由子 (聖和学園短期大学)
研究協力者	利根川 智子 (東北福祉大学)
研究協力者	日野 さくら (東北福祉大学)
研究協力者	河合 規仁 (東北文教大学)

# 養成校アンケート「施設実習指導の実際に関する調査研究」について

## 【問題と目的】

全国保育士養成協議会東北ブロック研究委員会では、質の高い指導を目指すための資料を収集し、参考資料として東北ブロック内で共有するため様々な調査研究をこれまで行ってきた。平成28年度は、これまでの研究成果を基にしながら、今まで検討が十分でなかった施設実習に焦点を当て、実習およびその事前事後指導について各養成校の実態を調査し把握することを目的として「施設実習指導の実際に関する調査研究」を実施した。

## 【方 法】

### （1）調査時期および対象者

2016年度11月27日に行われた「全国保育士養成協議会 東北ブロックセミナー北上大会」において、調査趣旨を説明し、アンケート用紙を配布し、11月下旬から12月下旬にかけて回答を求めた。アンケート調査の回答は、東北ブロックの保育士養成校の施設実習担当者が行い、40課程（41校）全養成校から回答を得た（回答率100%）。

### （2）調査項目と調査内容

アンケート調査用紙は、①フェイスシート、②保育実習Ⅰ（施設）、③保育実習Ⅲ、④ボランティアの4項目で構成されており、項目ごとの内容は以下に示す通りである（表1）。

### （3）集計方法

保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅲ、ボランティアに関して、実態を把握し、それぞれの特徴を見出すために、それぞれの項目の内容ごとに量的に集計をおこなった。また、自由記述回答に関しては、それぞれ意味の類似性に基づき集計をおこなった。

表 1. 各項目の質問内容

①フェイスシート	
<b>基本的属性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県名</li> <li>・ 養成校名</li> <li>・ 養成年数</li> <li>・ 保育士資格取得予定学生の定員数</li> <li>・ 記入ご担当者名</li> <li>・ ご記入日</li> </ul>	
②保育実習Ⅰ（施設）	③保育実習Ⅲ
<b>全般に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習生の人数</li> <li>・ 実習先（施設種別ごとの施設数と実習生数）</li> <li>・ 実習対象年次と実習期間</li> </ul> <b>事前指導に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割上の扱いと実施時間</li> <li>・ 方法と実施時間</li> <li>・ 内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>重視していること</li> <li>課題としていること</li> </ul> </li> <li>・ 工夫されていること</li> </ul> <b>事後指導に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割上の扱いと実施時間</li> <li>・ 方法と実施時間</li> <li>・ 内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>重視していること</li> <li>課題としていること</li> </ul> </li> <li>・ 工夫されていること</li> </ul>	<b>全般に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習生の人数</li> <li>・ 実施の有無</li> <li>・ 実習先（施設種別ごとの施設数と実習生数）</li> <li>・ 実習対象年次と実習期間</li> </ul> <b>事前指導に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割上の扱いと実施時間</li> <li>・ 方法と実施時間</li> <li>・ 内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>重視していること</li> <li>課題としていること</li> </ul> </li> <li>・ 工夫されていること</li> </ul> <b>事後指導に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割上の扱いと実施時間</li> <li>・ 方法と実施時間</li> <li>・ 内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>重視していること</li> <li>課題としていること</li> </ul> </li> <li>・ 工夫されていること</li> </ul>
④ボランティア	
<b>全般に関する内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施の有無</li> <li>・ 推奨の方法</li> <li>・ 実施に関する学生の動向の把握について</li> </ul>	



## (1)保育実習 I 及び保育実習指導 I についての概要

## ②平成 28 年度保育実習 I の実習先

平成 28 年度の保育実習 I の施設種別と実習生数の結果を、図 1 に示す。保育実習 I が行われた総施設数は 1,084 施設であり、最も多かった実習先は「障害者支援施設」で 741 名が実習をしていた。次いで「児童養護施設」、「障害児入所施設」という結果である。その他には、複合施設である県立医療療育センターが回答に挙げられていた。

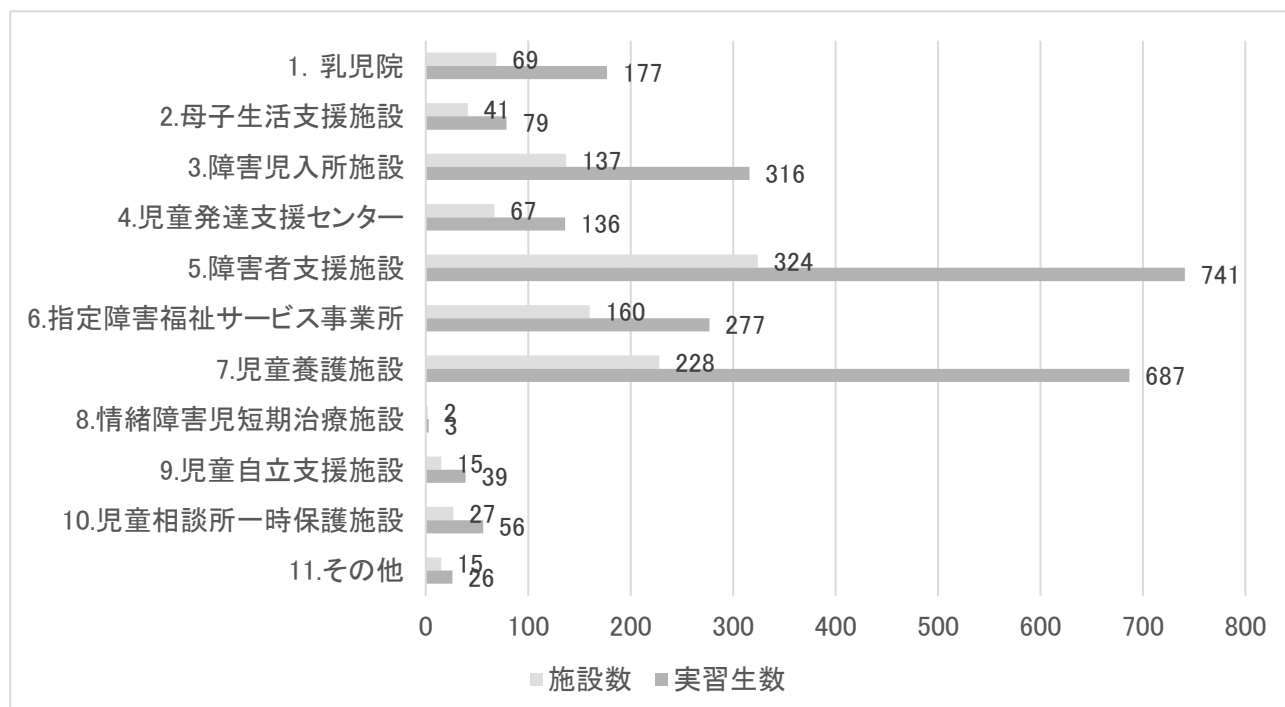


図 1 保育実習 I が実施された種別ごとの施設数および実習生数

表 3 には保育実習 I を実施した県別の内訳を示した。各県の実習施設数の状況もあるが、養成校の中には、特定の施設を実習先として実施していることもあり、最も多かった「障害者支援施設」での秋田県の実習生はいなかったことなど、県によって種別や実習生数に偏りがあった。

表 3 保育実習 I 県別の種別ごとの施設数および実習生数

	1. 乳児院	2. 母子生活支援施設	3. 障害児入所施設	4. 児童発達支援センター	5. 障害者支援施設	6. 指定障害福祉サービス事業所	7. 児童養護施設	8. 情緒障害児短期治療施設	9. 児童自立支援施設	10. 児童相談所一時保護施設	11. その他
青森	25	10	62	24	197	9	104	1	8	0	0
秋田	36	18	24	11	0	2	99	0	6	10	6
山形	3	0	13	13	78	53	46	0	0	0	0
岩手	15	0	32	32	85	63	81	2	0	0	0
宮城	77	51	70	50	245	142	204	0	18	24	20
福島	21	0	115	6	136	8	153	0	7	22	0
合計	177	79	316	136	741	277	687	3	39	56	26

## 【設問】

(3) 実習対象年次、実習期間について、選択肢の中から選んで○をつけてください。(複数選択可)

実習対象年次 【 1年次 ・ 2年次 ・ 3年次 ・ 4年次 】

実習期間 【 前期授業期間 ・ 夏季休業期間 ・ 後期授業期間 ・ 冬季休業期間  
春季休業期間 ・ その他 ( ) 】

## ③保育実習Ⅰの実習対象年次と実習時期

保育実習Ⅰの実習対象年次の結果を図2に示す。「2年次」(26校：63%)が多く、「1年次」(7校：17%)、「3年次」(6校：15%)と続いた。その他は2・3年制をもつ養成校である。

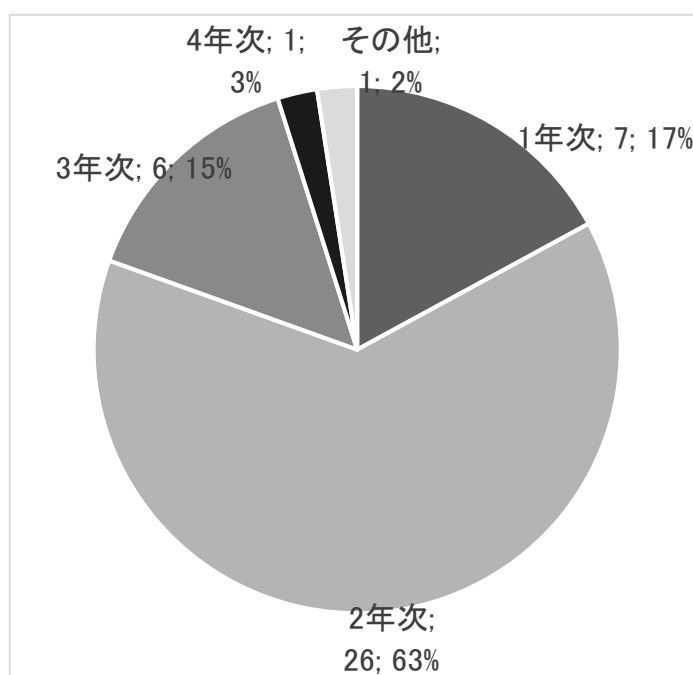


図2 保育実習Ⅲの実習対象年次

保育実習Ⅰの実習期間の結果を図3に示す。保育実習Ⅰは、「前期授業期間」(13校：37%)が最も多い結果となった。「後期授業期間」と「春季休業期間」(7校：20%)が共に続いている。その他は「前期授業期間と夏季休業期間」、「夏季休業期間と春季休業期間」で行っていると回答した養成校であった。

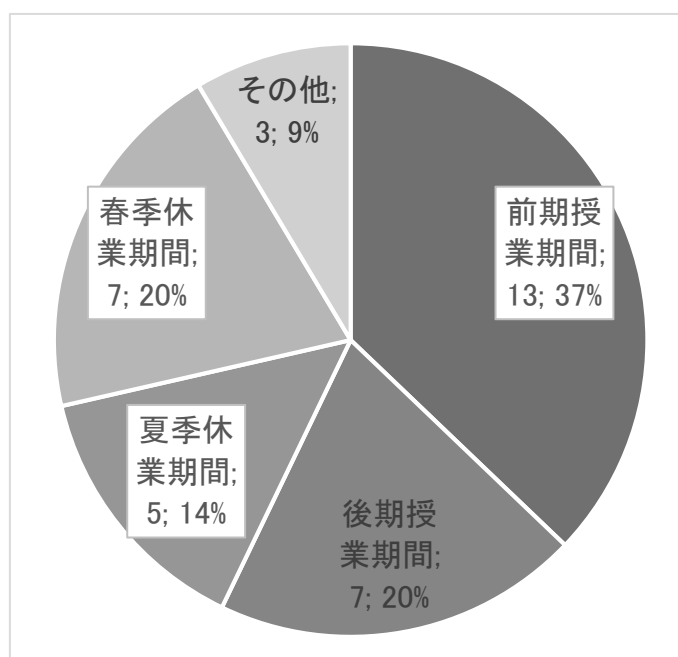


図3 保育実習Ⅰの実習期間

(4) 保育実習 I (施設) の事前指導の内容・方法についてお伺いします。

① 事前指導 (全体指導、グループ指導、個別指導) の時間割上の扱いと実施時間について、1 コマ 90 分を 1 回として、回数をそれぞれの欄にご記入ください。

時間割上の扱い	指 導	実施時間
正規時間内	全体指導	( ) 回
	グループ指導 (ゼミ単位、実習先ごと等)	( ) 回
	個別指導	( ) 回
正規時間外	全体指導	( ) 回
	グループ指導 (ゼミ単位、実習先ごと等)	( ) 回
	個別指導	( ) 回

#### ④保育実習指導 I の事前・事後指導の形態

保育実習 I の事前・事後指導の実施時間の結果を表 4、図 4 に示す。

事前指導では「正規時間外」の「全体指導」(105.5 時間)が多く、「個別指導」に至っては事前指導 (57.5 時間)、事後指導 (58.7 時間)ともによく取り組まれている傾向がある。事後指導では、正規時間内・外ともに「個別指導」がわずかであるが多くなっている。

「全体指導」の形態を用いて、正規時間内に指導を行っている養成校が多かった。正規時間内で「全体指導」の形式を用いて指導する回数で最も多かったのは事前指導で 20 回、事後指導で 7 回であった。

事前指導では「全体指導」よりも、「グループ指導」の形態を用いて指導を行う回数が多い養成校も 1 校見られた。また、正規時間外で全体指導を 30 回実施、あるいは個別指導を 25 回実施している養成校もあった。そのため平均時間には、指導形態の特徴がある養成校の影響があると考えられる。

事後指導では、正規時間外での指導のみの養成校もわずかに見られた。正規時間外で「個別指導」を実施している回数で最も多かったのは 12 回である。

表 4 保育実習指導 I の正規時間内・外の指導形態

<b>保育実習 I 事前指導時間</b>	<b>全体</b>	<b>グループ</b>	<b>個別</b>
正規内 合計(平均)	316(7.7)	55.5(1.4)	21(0.5)
正規外 合計(平均)	105.5(5.0)	17.5(0.4)	57.5(1.4)
<b>保育実習 I 事後指導時間</b>	<b>全体</b>	<b>グループ</b>	<b>個別</b>
正規内 合計(平均)	76(2.1)	30.5(1.1)	23(0.8)
正規外 合計(平均)	22.5(0.8)	11.5(0.4)	58.7(1.8)

## (1)保育実習 I 及び保育実習指導 I についての概要

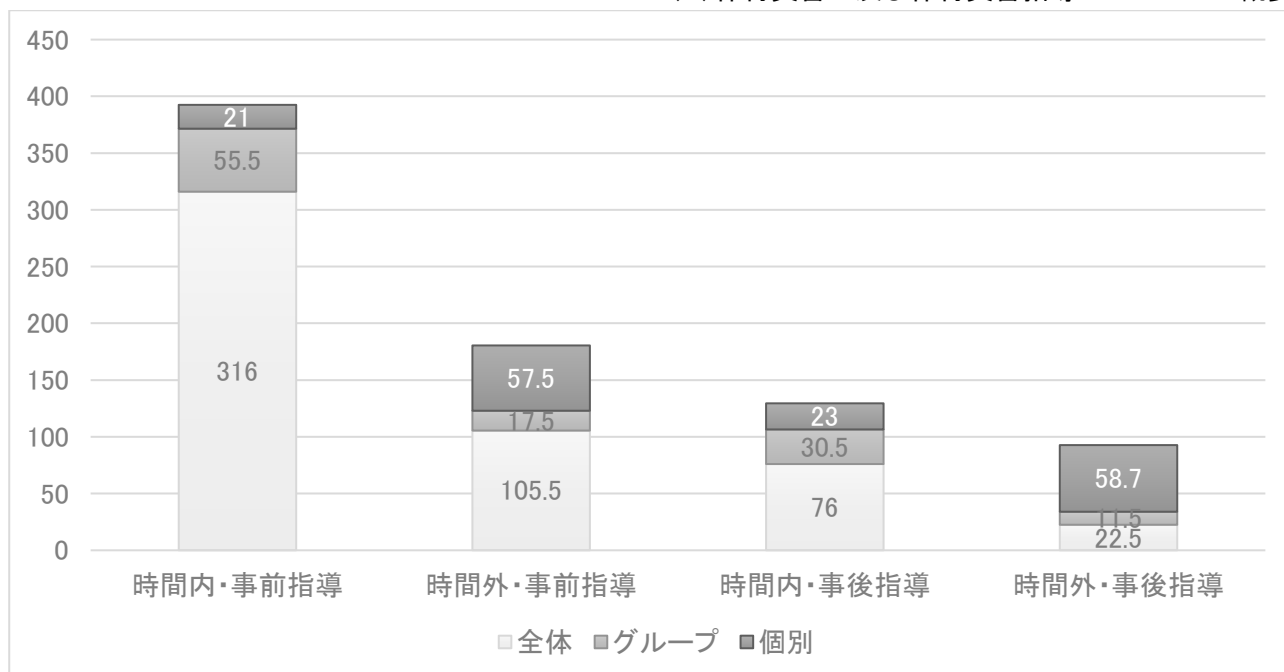


図4 保育実習指導 I の事前・事後指導の形態（時間）

② 事前指導で取り入れている方法に○をつけてください。また、実施時間について、1コマ90分を1回として、回数をそれぞれの欄にご記入ください。

方法	内容	実施時間
1 講義型	講義内でのまとめ、全体評価、簡易報告会等	( ) 回
2 イベント型実習報告会	個人発表、グループ発表等	( ) 回
3 グループワーク型	ディスカッション、ワールド・カフェ等	( ) 回
4 記録介在型	レポート作成、記録整理等	( ) 回
5 個別面接型	実習担当者、訪問指導担当者による面談等	( ) 回
6 外部講師参加型	施設長、現任保育者による講話等	( ) 回
7 キャリア支援型	適性診断、保育士資格の登録手続き説明等	( ) 回
8 見学	福祉施設等の見学	( ) 回
9 その他	( )	( ) 回

## ⑤保育実習指導 I の事前・事後指導の指導方法

保育実習指導 I の事前・事後指導の指導方法の結果を図5および表5及び6に示す。事前指導では、「講義型」の指導が圧倒的に多く、「外部講師」と「見学」も取り込まれている。事後指導では、「個別面接」「イベント」「グループワーク」の順で回答数が多かった。「その他」は「施設見学の事前指導及び報告会」「指導案作成」「調書記入等」「暴力対応、てんかん発作対応演習」等が挙げられている。



## (1)保育実習 I 及び保育実習指導 I についての概要

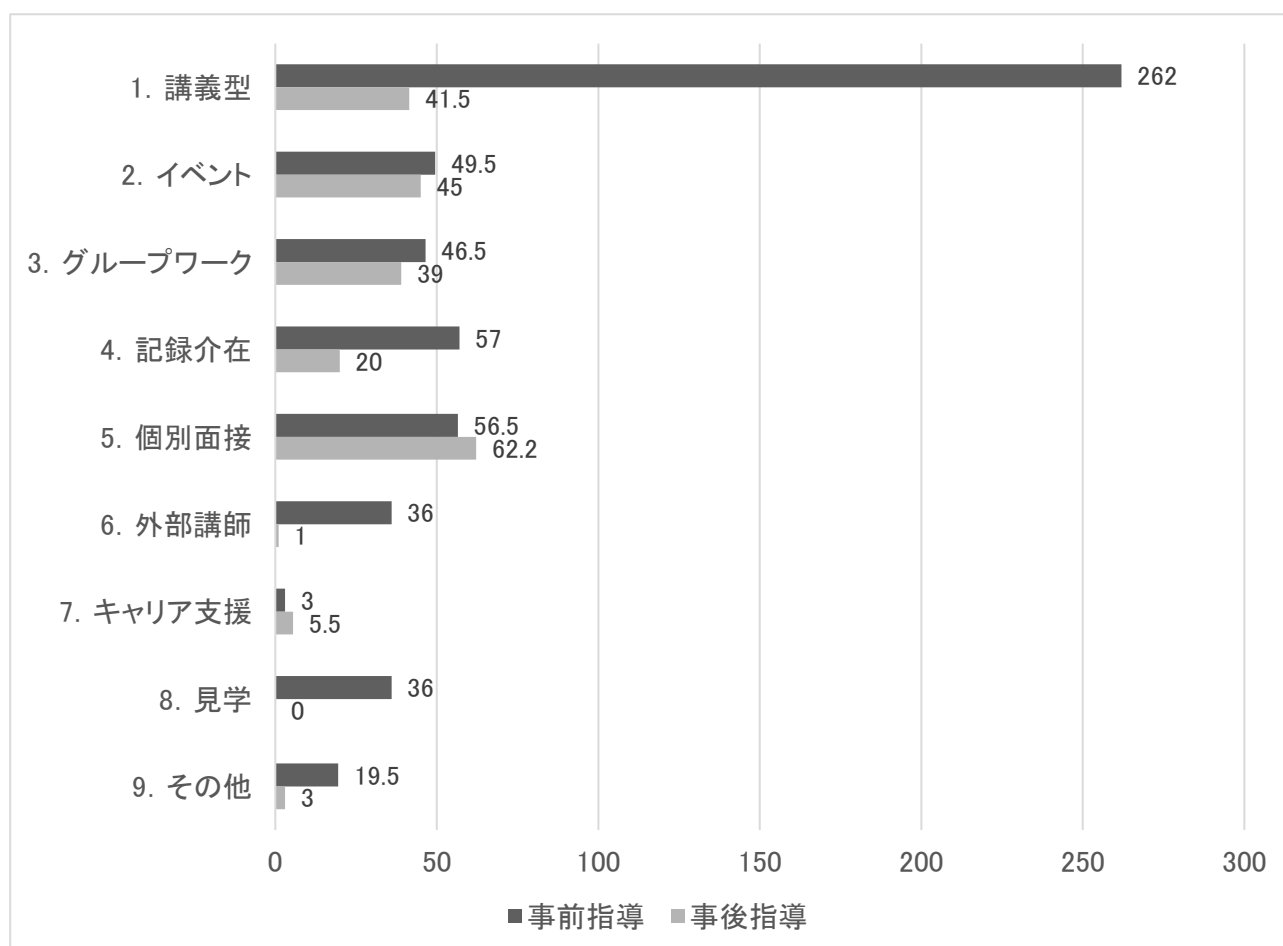


図5 保育実習指導 I の事前・事後指導の指導方法

表5 保育実習指導 I の事前指導の内容と時間

	1. 講義型	2. イベント	3. グループワーク	4. 記録介在	5. 個別面接	6. 外部講師	7. キャリア支援	8. 見学	9. その他
平均	12.5	2.4	2.3	2.8	2.8	1.7	0.1	1.8	1.0
最大	17	11	12	11	25	4	2	6	13
最小	1	0	0	0	0	0	0	0	0

表6 保育実習指導 I の事後指導の内容と時間

	1. 講義型	2. イベント	3. グループワーク	4. 記録介在	5. 個別面接	6. 外部講師	7. キャリア支援	8. 見学	9. その他
平均	2.2	2.2	2.0	1.1	3.2	0.1	0.3	0.0	0.2
最大	6	5	4.5	4	12	1	2	0	2
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## (2) 保育実習指導 I・事前指導について (自由記述)

## 【設問】

1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(4) 保育実習 I (施設) の事前指導の内容・方法についてお伺いします。

③ 事前指導において、特に重要視していることを3つ、欄にご記入ください。また、その指導内容について具体的な取り組みがあれば、ご記入ください。なお、保育所実習の指導と共通して扱われていることでもかまいません。

	重要視していること	具体的取り組み
記入例	施設の理解	事前に施設を調べ発表する 現場の方をお呼びしてお話を伺う
1		

## ① 事前指導において、特に重要視していること

表7は全41養成校から得られた自由記述の回答を、各カテゴリーに分類し示したものである。

表7 事前指導において重要視していること

(回答校数=41, 総回答数=115)

項目	回答数	%
施設の理解	49	42.6%
実習生の立場・心構え(マナー含む)	21	18.3%
実習日誌・記録の書き方	14	12.2%
子ども・利用者理解	12	10.4%
課題の明確化	8	7.0%
施設実習の意義の理解	6	5.2%
職務理解	4	3.5%
実習先の調整	1	0.9%

※複数回答あり

実習事前指導において重要視していることとして、「施設の理解」(49件、42.6%)に関する回答が最も多くなっており、総回答数の4割を超えていた。その他に「実習生の立場・心構え(マナー含む)」(21件、18.3%)、「実習日誌・記録の書き方」(14件、12.2%)、「子ども・利用者理解」(12件、

10.4%)に関する回答が順に多く見られた。

次に表 8 は実習事前指導において重要視していることとして最も多くなっている「施設の理解」について、具体的にどのような指導方法で実施しているのかを記述内容から各カテゴリーに分類したものである。

表 8 事前指導において重要視していること（施設理解の指導方法）

(回答校数=71)

項目	回答数	%
個別の学習課題	21	29.6%
施設職員による講話	16	22.5%
視聴覚教材の活用	8	11.3%
施設見学	8	11.3%
グループでの学習課題	7	9.9%
実習報告会への参加	5	7.0%
講義を通じた解説	4	5.6%
事例検討	2	2.8%

※複数回答あり

事前指導において重要視していることのうち施設理解の指導方法として、「個別の学習課題」(21件、29.6%)に関する回答が最も多くなっており、次いで「施設職員による講話」(16件、22.5%)、「視聴覚教材の活用」(8件、11.3%)、「施設見学」(8件、11.3%)となっている。

#### 事前指導において重要視していることの特徴

##### ➤ 施設の理解を深めることを重視

個別の学習課題や職員の講話、視聴覚教材の活用、施設見学等の複数の指導方法を通して施設理解の促進を図り、実習に向けた準備を進めている。

##### ➤ 立場・心構えに対する意識向上を重視

過去の失敗例等から実習生としてふさわしい姿について考えさせ、そこから倫理的な配慮を意識した行動につなげようと進めている。

##### ➤ 実習日誌・記録の書き方の指導を重視

初期段階での実習ということもあり、まずは各項目における記入ポイントをしっかりと解説し、その後多様な施設種別に応じた記録や利用者との関わりの等の具体的な記録方法の指導を行なっている。

## 【設問】

## 1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(4) 保育実習 I (施設) の事前指導の内容・方法についてお伺いします。

④ 事前指導において、特に課題としていること(指導のしにくさを感じていること、取り組むべきだと考えているが実現できていないこと等)を3つ、欄にご記入ください。また、可能であれば、その課題について具体的にご記入ください。

	課題としていること	具体的内容
1		

## ② 事前指導において、特に課題としていること

表9は41養成校のうち、回答を得られた40校からの自由記述による回答を各カテゴリーに分類し示したものである。

表9 事前指導において課題としていること

(回答校数=40, 総回答数=88)

項目	回答数	%	項目	回答数	%
施設の理解	17	19.3%	施設実習の意義の理解	4	4.5%
実習日誌・記録の書き方	10	11.4%	職員とのコミュニケーション	4	4.5%
意欲・積極性の向上	10	11.4%	実習生の立場・心構え (マナー含む)	3	3.4%
子ども・利用者理解	7	8.0%	職務理解	2	2.3%
種別の違いに対する指導	7	8.0%	教員の施設内容の理解不足	2	2.3%
支援方法の指導	6	6.8%	課題の明確化	2	2.3%
カリキュラム設定 (時間の確保)	6	6.8%	個別対応	2	2.3%
見学や講話の設定	5	5.7%	配慮学生への対応	1	1.1%

※複数回答あり

事前指導において課題としていることとして、「施設の理解」(17件、19.3%)に関する回答が最も多くなっている。次いで「実習日誌・記録の書き方」(10件、11.4%)と「意欲・積極性の向上」(10件、

11.4%)が多くなっている。また、数は多くないものの「種別の違いに対する指導」(7件、8.0%)や「見学や講話の設定」(5件、5.7%)に関する回答も見られた。

#### 事前指導において課題としていることの特徴

- ▶ 各施設の理解を深めることの課題
  - ・全種別の施設見学や施設職員講話の実施に限界
  - ・実習までにマイナスイメージを払拭し、正しいイメージを作り上げる難しさ
- ▶ 実習日誌・記録の書き方の指導の課題
  - ・種別による書き方の違いに対する指導のあり方
  - ・施設イメージを持っていない学生に対する指導のあり方
- ▶ 施設実習に対する意欲・積極性の向上の課題
  - ・保育所保育士を志望学生への意欲向上のあり方
  - ・希望実習施設以外での実習実施学生への意欲向上のあり方

#### 【設問】

#### 1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(4) 保育実習 I (施設) の事前指導の内容・方法についてお伺いします。

⑤ 事前指導において、学生の理解を深めるため、意欲を高めるため等、工夫されていることがありましたら、ご記入ください。

	工夫されていること	具体的内容
1		

#### ③ 事前指導において、工夫されていること

表 10 は 41 校のうち、回答を得られた 36 校の自由記述による回答を各カテゴリーに分類し示したものである。

表 10 事前指導において工夫されていること

(回答校数=36, 総回答数=72)

項目	回答数	%
実習報告書・報告会を通した先輩からの情報提供	19	26.4%
施設職員による講話	13	18.1%
視聴覚教材の活用	12	16.7%
施設見学やボランティアの導入	7	9.7%
科目間連携	6	8.3%
事前学習課題の実施(グループ)	6	8.3%
事前学習課題の実施(個別)	5	6.9%
個別対応	2	2.8%
学生の反応を基にした授業づくり	2	2.8%

事前指導において工夫されていることとして、「実習報告書・報告会を通した先輩からの情報提供」(19件、26.4%)に関する回答が最も多くなっている。次いで「施設職員による講話」(13件、18.1%)、「視聴覚教材の活用」(12件、16.7%)に関する回答が多くなっている。

#### 事前指導において工夫されていることの特徴

- ▶ 先輩からの情報提供による工夫
  - ・実習報告会を行い上級生から直接情報を得る
  - ・報告書や実習日誌を通して上級生から間接的に情報を得る
  - ・上級生とのグループディスカッション(種別ごと)を通して情報を得る
- ▶ 施設職員による講話による工夫
  - ・目的に応じたゲストスピーカーの招聘  
(施設長：施設役割と実態 主任：支援の内容 先輩職員：働きがい 等)
- ▶ 視聴覚教材の活用による工夫
  - ・DVD等による視覚的な学びとレポートやリアクションペーパー等を併用し、具体的なイメージの獲得と確認

## (3) 保育実習指導 I・事後指導について (自由記述)

## 【設問】

## 1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(5) 保育実習 I (施設) の事後指導の内容・方法についてお伺いします。

- ③ 事後指導において、特に重要視していることを3つ、欄にご記入ください。また、その指導内容について具体的な取り組みがあれば、ご記入ください。なお、保育所実習の指導と共通して扱われていることでもかまいません。

	重要視していること	具体的取り組み
記入例	今後の課題の明確化	自己評価を行う 個別に面談を行う
1		

## ①事後指導において、特に重要視していること

41 養成校のうち、回答を得られた 40 校からの自由記述による回答を、まず「指導方法」と「指導内容」に大別し、それぞれ分類を行った。

表 11 に「指導方法」の集計結果を示す。

表 11 事後指導において重要視していること (指導方法)

(回答校数=40)

項目	回答数	%	項目	回答数	%
個別面接	23	56.1%	礼状の作成	3	7.3%
自己評価の実施	19	46.3%	実習記録の活用	2	4.9%
グループワーク	17	41.5%	卒業生支援	1	2.4%
実習報告書・レポート	16	39.0%	ボランティア	1	2.4%
実習報告会	15	36.6%	外部講師の参加	1	2.4%
実習先評価の活用	14	34.1%	教員による総括	1	2.4%
実習後アンケート	3	7.3%	実習経験の言語化	1	2.4%

※複数回答あり

実習事後指導で特に重要視していることとして、多くの養成校で実施されている指導方法は、「個別面接」(23校、56.1%)、「学生による自己評価の実施」(19校、46.3%)、「グループワーク」(17校、41.5%)であり、これらは全養成校数の4割以上の回答が得られた。それ以外でも多岐にわたる回答が得られており、各養成校において様々な方法で事後指導が実施されていることがわかる。

## 【結果】

## (3) 保育実習指導 I・事後指導について(自由記述)

続いて、「指導内容」についての集計結果を表 12 に示す。

表 12 事後指導において重要視していること (指導内容)

(回答校数=40、総回答数=123)

項目	回答数	%	項目	回答数	%
課題の明確化	46	37.4%	施設就職者(卒業生)の支援	1	0.8%
実習の振り返り	37	30.1%	教員による実習先の妥当性の確認	1	0.8%
子ども・利用者の理解	9	7.3%	教員による実習内容理解	1	0.8%
施設の理解	7	5.7%	協働性の育成	1	0.8%
実習内容の共有	7	5.7%	実習生としての態度・礼儀	1	0.8%
次の実習への接続	4	3.3%	実習日誌の見直し	1	0.8%
進路指導	3	2.4%	プレゼン能力の育成	1	0.8%
後輩への情報提供	2	1.6%	社会福祉の意義の理解	1	0.8%

※複数回答あり

実習事後指導で特に重要視していることとして、多くの回答が得られた指導内容は、「課題の明確化」(46件、37.4%)と「実習の振り返り」(37件、30.1%)であり、総回答件数の3割を超えていた。また、同様に事後指導でなければ行えない指導内容として、数は少ないものの、「実習内容の共有」(7件、5.7%)、「次の実習への接続」(4件、3.3%)、「後輩への情報提供」(2件、1.6%)というような回答も見られた。

## 【設問】

## 1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(5) 保育実習 I (施設) の事後指導の内容・方法についてお伺いします。

④ 事後指導において、特に課題としていること(指導のしにくさを感じていること、取り組むべきだと考えているが実現できていないこと等)を3つ、欄にご記入ください。また、可能であれば、その課題について具体的にご記入ください。

	課題としていること	具体的内容
1		

## ②事後指導において、特に課題としていること

41 養成校のうち、回答を得られた 36 校からの自由記述による回答を、まず 6 項目に大別し、それぞれで分類を行った。

表 13 に集計結果を示す。



表 13 事後指導において課題としていること

(回答校数=36、総回答数=72)

項目	回答数	%
実習指導体制	30	42%
学生指導	16	22%
実習内容	11	15%
時間の不足	9	13%
実習先評価	3	4%
実習指導時期	3	4%

※複数回答あり

## 〈1〉実習指導体制

事後指導において特に課題としていること（指導のしにくさを感じていること、取り組むべきだと考えているが実現できていないこと等）として、最も回答が多かったのは、「実習指導体制」についてであった（30件、42%）。表 14 にその内訳を示す。

子ども・利用者、施設の理解を深めるための指導体制に課題があるという回答が多かったが、それ以外にも回答は多岐にわたっており、学内の実習指導体制に関して、各養成校が様々な課題を抱えていることがわかる。

表 14 事後指導において課題としていること（「実習指導体制」）

(総回答数=30)

項目	回答数	項目	回答数
子ども・利用者、施設の理解	7	自己課題の改善	1
記録の書き方	3	施設保育士の理解	1
実習成果の学生生活へ反映	3	省察の活用の確認	1
実習内容の共有	2	全体的な総括指導	1
ボランティア活動	2	次の実習への接続	1
個別指導	2	実習先評価のフィードバック	1
進路指導	2	課題への取り組み	1
その他	2		

## 〈2〉学生指導

続いて、事後指導の課題として回答が多かったものは、「学生指導」に関するものであった。表 15 にその内訳を示す。

実習後の学生への指導として、「実習がうまくいかなかった学生の対応」や「低評価学生の指導」など、実習の成果が芳しくなかった学生への対応や、「実習への意欲が低い学生の対応」や「実習後のモチベーション」など、実習辞退や実習後の学生生活へのモチベーションの低下の問題など、様々な学生への対応に養成校が苦慮している様子が見える。

表 15 事後指導において課題としていること(「学生指導」)

(総回答数=16)

項目	回答数	項目	回答数
実習がうまくいかなかった学生の対応	2	子ども・利用者、施設の理解	1
施設実習の意義の理解	2	言語化と情報共有の困難	1
実習への意欲が低い学生の対応	2	実習後のモチベーション	1
次の実習へ活かさない	2	基本的な生活習慣の問題	1
低評価学生の指導	2	他の実習との関連	1
		学生の個人差が大きい	1

### 〈3〉実習内容

「実習内容」についての課題についての内訳を表 16 に示す。ここでは、実習先での実習内容について、養成校内での事後指導における対応が必要だと思われる内容の回答（「実習先への不満の対応」や実習における「負の体験への対応」など）が見られた。

表 16 事後指導において課題としていること(「実習内容」)

(総回答数=11)

項目	回答数	項目	回答数
実習先への不満の対応	3	施設種別の理解	1
実習内容の偏りへの対応	2	利用者・施設の理解	1
負の経験への対応	1	実習日誌指導	1
施設の負のイメージ	1	支援計画を見せてもらえない	1

### 〈4〉時間の不足

「時間の不足」についての課題についての内訳を表 17 に示す。ここでは、様々な実習事後指導を行うためには、十分な時間を確保できないという回答が見られた。

表 17 事後指導において課題としていること(「時間の不足」)

(総回答数=9)

項目	回答数	項目	回答数
事後指導の回数	3	実習の振り返り	1
個別指導	2	日誌の事後指導	1
実習内容の共有	2		

### 〈5〉実習先評価

「実習先評価」に関する課題としては、3件の回答があった。そのうち2件は「自己評価とのズレ」であり、1件は「平等性の確保」であった。

## &lt;6&gt;実習指導時期

「実習指導時期」に関する課題としては、3件の回答があった。そのうち2件は「実習報告会」の開催時期について2件、実習終了後から「実習指導までの間隔」が長いという回答が1件であった。

## 【設問】

## 1. 保育実習 I (施設) についてお伺いします。

(5) 保育実習 I (施設) の事後指導の内容・方法についてお伺いします。

⑤ 事後指導において学生が意欲的に自己課題を見つけるため、施設の理解を深めるため等、工夫されていることがありましたら、ご記入ください。

	課題としていること	具体的内容
1		

## ③事後指導において、工夫されていること

41 養成校のうち回答を得られた 29 校からの自由記述による回答をもとに分類した集計結果を、表 18 に示す。

表 18 事後指導において工夫されていること

(回答校数=29、総回答数=46)

項目	回答数	%	項目	回答数	%
実習報告会	9	20%	実習内容の共有	1	2%
グループワーク	7	15%	少人数指導	1	2%
個別面接	7	15%	事例発表	1	2%
ボランティアの推奨	3	7%	子ども・利用者、施設の理解	1	2%
自己評価	3	7%	個別体験の普遍化	1	2%
実習報告書	2	4%	参考書籍・視聴覚教材の紹介	1	2%
他の科目との連携	2	4%	実習経験の意味づけ	1	2%
実習経験の言語化	2	4%	振り返りシート	1	2%
実習後アンケート	1	2%	保育者としての継続的な学び	1	2%
実習後課題	1	2%	実習内容の共有	1	2%

先に質問した「事後指導において重要視していること」と共通する内容の回答が多く見られ、各養成校では、実習事後指導において様々な工夫をされていることがわかる。

工夫している実習指導の方法として、「実習報告会」；(9件、20%)「グループワーク」(7件、15%)「個別面接」(7件、15%)の回答数が多かった。

## (4) 保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲについての概要の概要

## 【設問】

(1) 保育実習Ⅲを実施されていますか。選択肢の中から選んで○をつけてください。

【 している      していない 】

## ① 保育実習Ⅲの実施有無

保育実習Ⅲを実施しているかについて、その結果を表 19 に示す。「している」と回答したのは 22 校で、岩手県と福島県では全ての養成校で保育実習Ⅲを実施していた。また、秋田県では実施されていなかった。

保育実習Ⅲを実施していた 22 校の 1 学年の定員規模を 50 名以下、51～100 名、101 名以上の 3 区分に分けた結果を表 20 に示す。また、その 22 校の養成年限についての結果を表 21 に示す。今回調査した養成校の養成年限別にし、その中で保育実習Ⅲを実施している養成校は、2 年制、4 年制においては、およそ半数の養成校で保育実習Ⅲが行われていた。

表 19 保育実習の実施有無

(単位:校)

	している	していない	計
青森	3	4	7
秋田	0	3	3
岩手	5	0	5
山形	2	1	3
宮城	2	11	13
福島	10	0	10
計	22	19	41

表 20 保育実習Ⅲを実施している養成校規模

(単位:校)

～50 名	51～100 名	101 名以上
11	8	3

表 21 保育実習Ⅲを実施している養成校の養成年限

(単位:校)

2 年制	3 年制	4 年制
14	1	7



## (4) 保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲについての概要

多くなっていた。反対に、保育実習Ⅲを実施していると回答している養成校において、平成28年度は1名も実習生がいなかった養成校は4校あった。

また、各県における施設種別毎の実習生数の結果を、表22に示す。保育実習Ⅲで最も多くの実習生が実習した施設は「児童養護施設」で、57名の学生が実習をしていた。次いで、53名の「児童厚生施設」、38名の「障害者支援施設」という結果だった。

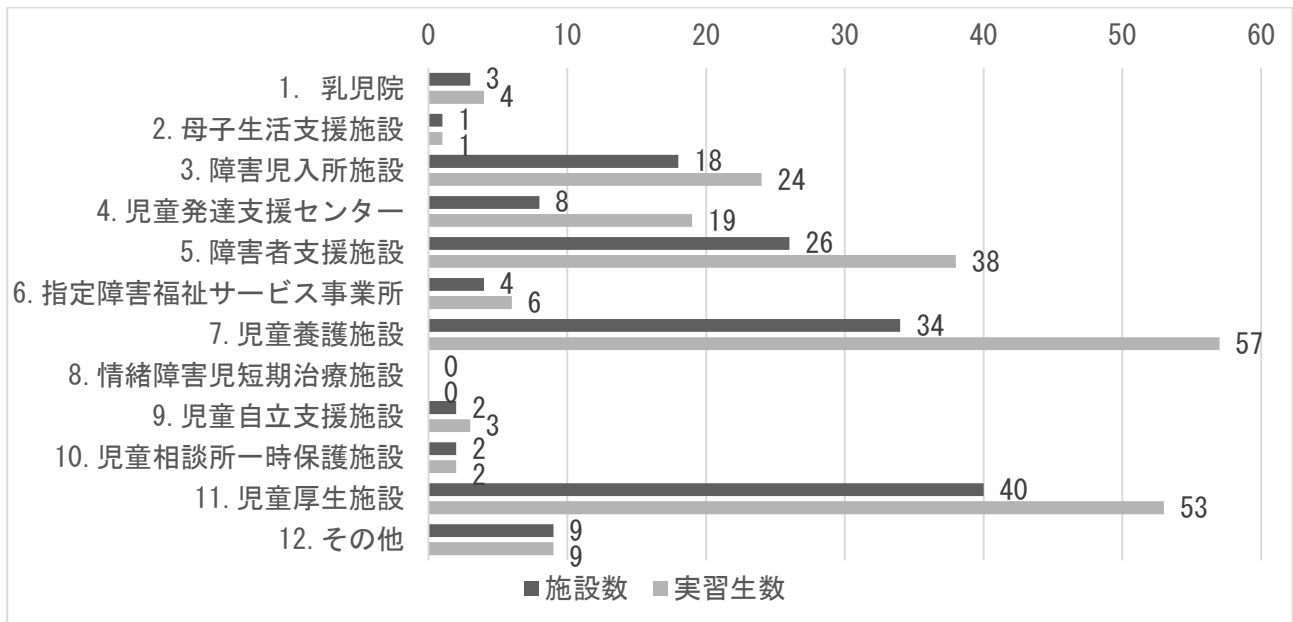


図6 保育実習Ⅲが実施された施設種別ごとの実習生数と施設数

表22 各県における施設種別毎の実習生数

	1. 乳児院	2. 母子生活支援施設	3. 障害児入所施設	4. 児童発達支援センター	5. 障害者支援施設	6. 指定障害福祉サービス事業所	7. 児童養護施設	8. 情緒障害児短期治療施設	9. 児童自立支援施設	10. 児童相談所一時保護施設	11. 児童厚生施設	12. その他	計
青森	1	0	8	3	10	2	8	0	1	0	0	0	33
秋田	未実施												
岩手	3	0	1	14	10	4	9	0	0	1	43	9	94
山形	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
宮城	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	8
福島	0	1	15	0	18	0	38	0	2	1	4	0	79
	4	1	24	19	38	6	57	0	3	2	53	9	216

## 【設問】

(4) 実習対象年次、実習期間について、選択肢の中から選んで○をつけてください。

実習対象年次 【 1年次 ・ 2年次 ・ 3年次 ・ 4年次 】

実習期間 【 前期授業期間 ・ 夏季休業期間 ・ 後期授業期間 ・ 冬季休業期間

春季休業期間 ・ その他 ( ) 】

## ③ 保育実習Ⅲの実習対象年次と実習時期

保育実習Ⅲの実習対象年次の結果を表 23 に示す。ほとんどの養成校において、保育実習Ⅲは、各養成校の最終学年に実施されていた。また、保育実習Ⅲの実習時期の結果は表 24 のとおり、「夏季休業期間」が最も多い結果となった。実習時期については、「夏季休業期間」と「後期授業期間」のどちらかに実習生を分けて実施していたり、「最終学年次に、施設側と日程を調整して」行っていると回答した養成校もあった。

表 23 保育実習Ⅲの実習対象年次

(単位：校)

2年次	3年次	4年次
16	1	5

表 24 保育実習Ⅲの実習期間

(単位：校)

前期授業期間	後期授業期間	夏季休業期間	冬季休業期間	春季休業期間	その他
3	2	14	1	0	2

(5) 保育実習Ⅲの事前指導の内容・方法についてお伺いします。

① **事前指導**（全体指導、グループ指導、個別指導）の時間割上の扱いと実施時間について、1コマ90分を1回として、回数をそれぞれの欄にご記入ください。

時間割上の扱い	指 導	実施時間
正規時間内	全体指導	( ) 回
	グループ指導（ゼミ単位、実習先ごと等）	( ) 回
	個別指導	( ) 回
正規時間外	全体指導	( ) 回
	グループ指導（ゼミ単位、実習先ごと等）	( ) 回
	個別指導	( ) 回

#### ④ 実習指導Ⅲの事前・事後指導の形態

保育実習Ⅲの事前・事後指導の実施時間の結果を図7に示す。保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後指導と同様に、全体指導の形態を用いて、正規時間内に指導を行っている養成校が多かった。その形式を用いて指導する回数で最も多かったのは15回であった。全体指導よりも、グループ指導の形態を用いて指導を行う回数が多い養成校もわずかに見られた。また、正規時間外で随時、個別指導を行っている回答した養成校もあった。

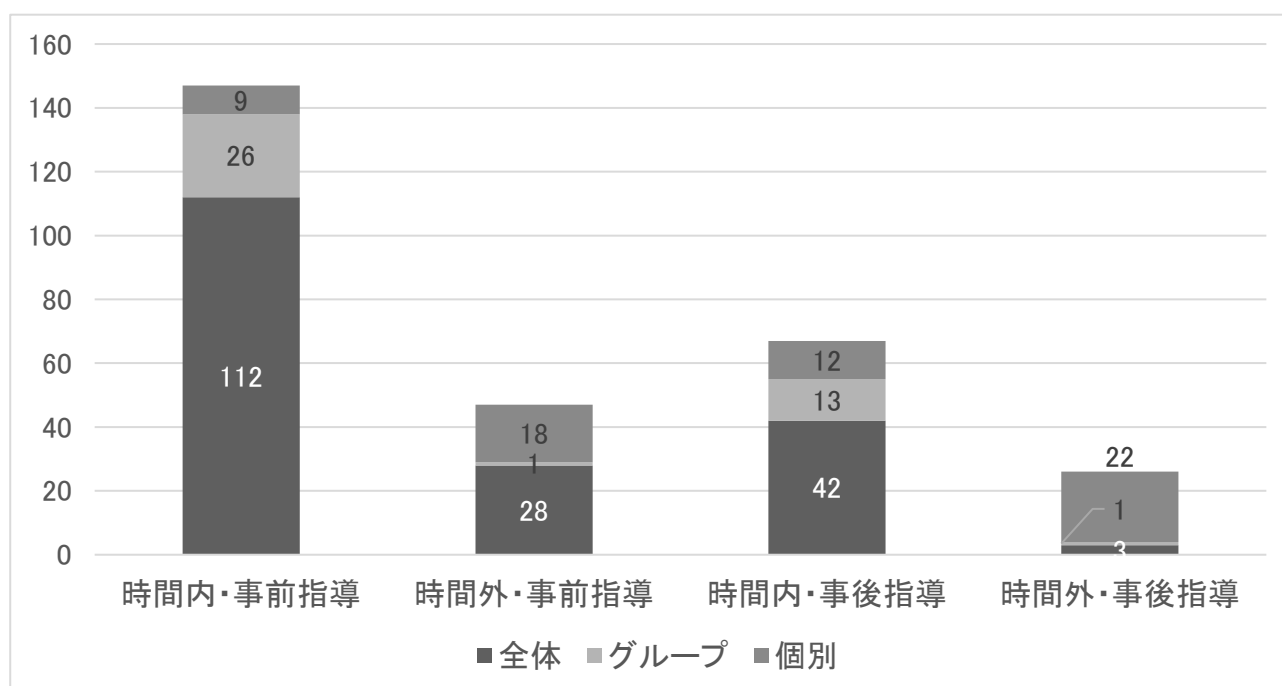


図7 実習指導Ⅲの事前・事後指導の形態



② 事前指導で取り入れている方法に○をつけてください。また、実施時間について、1コマ90分を1回として、回数をそれぞれの欄にご記入ください。

方法	内容	実施時間
1 講義型	講義内でのまとめ、全体評価、簡易報告会等	( ) 回
2 イベント型実習報告会	個人発表、グループ発表等	( ) 回
3 グループワーク型	ディスカッション、ワールド・カフェ等	( ) 回
4 記録介在型	レポート作成、記録整理等	( ) 回
5 個別面接型	実習担当者、訪問指導担当者による面談等	( ) 回
6 外部講師参加型	施設長、現任保育者による講話等	( ) 回
7 キャリア支援型	適性診断、保育士資格の登録手続き説明等	( ) 回
8 見学	福祉施設等の見学	( ) 回
9 その他	( )	( ) 回

### ⑤ 実習指導Ⅲの事前・事後指導の指導方法

実習指導Ⅲの事前・事後指導の指導方法の結果を図8に示す。事前指導では、「講義型」の指導が圧倒的に多く、事後指導では、「個別面接」「グループワーク」「講義型」の順で回答数が多かった。また、事前指導の一環として、課外授業で子どもと関わるボランティアを取り入れている養成校もあった。

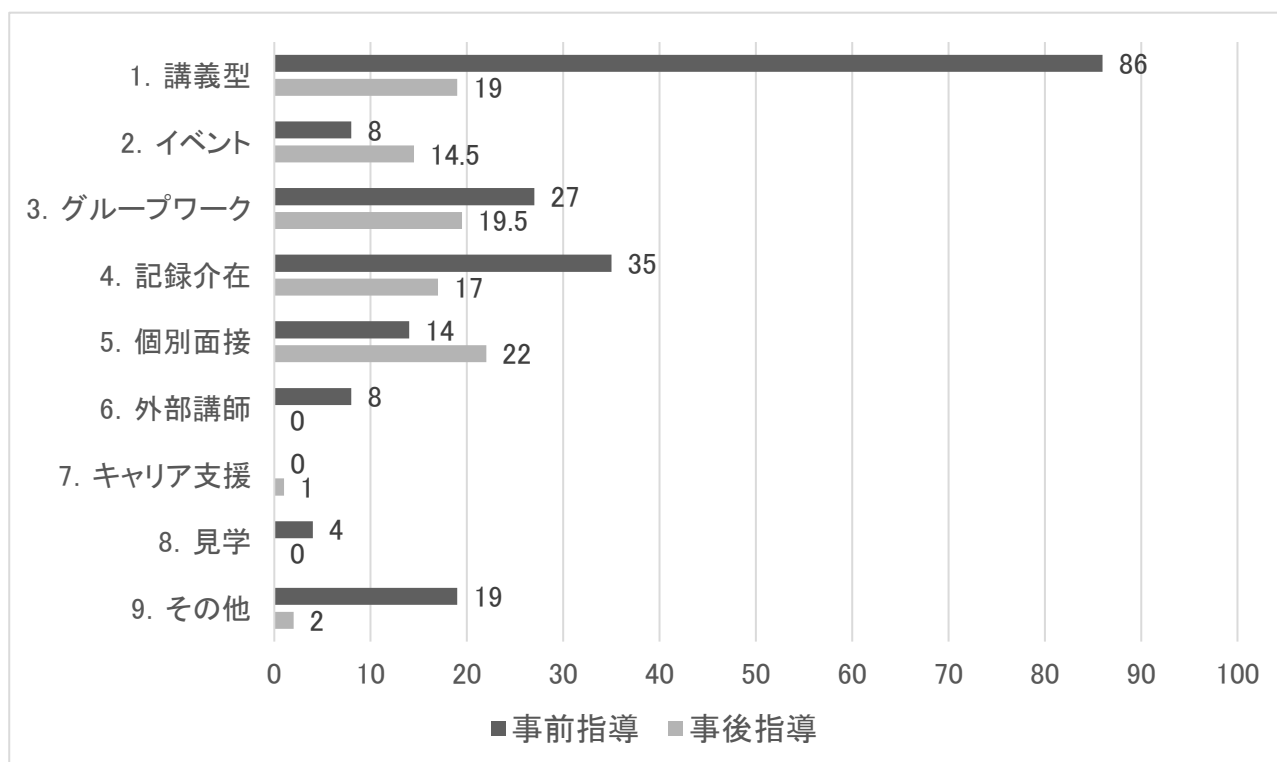


図8 実習指導Ⅲの事前・事後指導の指導方法

## (5) 保育実習指導Ⅲ・事前について(自由記述)

## 【設問】

2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(5) 保育実習Ⅲの事前指導の内容・方法についてお伺いします。

③ 事前指導において、保育実習Ⅲとして特に重要視していることを3つ、欄にご記入ください。また、その指導内容について具体的な取り組みがあれば、ご記入ください。

## ① 事前指導において、特に重要視していること

保育実習Ⅲを実施している22養成校のうち、20校から回答が得られた。表25は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表25 事前指導において重要視していること(保育実習Ⅲ)

(回答校数=20)

項目	回答数	%
施設理解	12	60.0%
実習生の立場・心構え(マナー含む)	4	20.0%
実習日誌・記録の書き方	2	10.0%
子ども・利用者理解	7	35.0%
課題の明確化	6	30.0%
職務理解	4	20.0%
個別支援技術の向上	8	40.0%
その他	5	25.0%

※複数回答あり

「施設理解」「子ども・利用者理解」「課題の明確化」など、保育実習Ⅰの事前指導で重要視している項目が同様に見られた。その中で、保育実習Ⅰとは異なる項目として「個別支援技術の向上」(8件、40.0%)が見られた。

## 【設問】

## 2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(5) 保育実習Ⅰ（施設）の事後指導の内容・方法についてお伺いします。

- ④ 事前指導において、保育実習Ⅲとして特に課題としていること（指導のしにくさを感じていること、取り組むべきだと考えているが実現できていないこと等）を3つ、欄にご記入ください。また、可能であれば、その課題について具体的にご記入ください。

## ② 事前指導において、特に課題としていること

保育実習Ⅲを実施している22養成校のうち、17校から回答が得られた。表26は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表26 事前指導において課題としていること（保育実習Ⅲ）

(回答校数=17)

項目	回答数	%
実習日誌・記録の書き方	2	11.8%
意欲・積極性の向上	3	17.6%
子ども・利用者理解	2	11.8%
カリキュラム設定(時間の確保の難しさ)	3	17.6%
職員とのコミュニケーション	3	17.6%
課題の明確化	2	11.8%
個別対応	2	11.8%
指導案の作成	2	11.8%
その他	3	17.6%

※複数回答あり

「意欲・積極性の向上」「カリキュラム設定（時間の確保の難しさ）」「職員とのコミュニケーション」など、保育実習Ⅰの事前指導で課題としている項目が同様に見られた。「意欲・積極性の向上」については、保育実習Ⅱができないために保育実習Ⅲを選択せざるを得なかったり、教育実習、保育実習Ⅰ（保育所）を経験したのち、幼稚園、保育所に再度行くことを希望せず、その結果保育実習Ⅲを選択することとなったりした学生の意欲・積極性の低さが課題として挙がっていた。その中で、保育実習Ⅰとは異なる項目として「指導案の作成」（2件、11.8%）が見られた。

## 【設問】

## 2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(5) 保育実習Ⅰ（施設）の事後指導の内容・方法についてお伺いします。

- ⑤ **事前指導**において、保育実習Ⅲとして、学生の理解を深めるため、意欲を高めるため等、工夫されていることがありましたら、ご記入ください。

## ③ 事前指導において、工夫されていること

保育実習Ⅲを実施している 22 養成校のうち、17 校から回答が得られた。表 27 は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表 27 事前指導において工夫されていること（保育実習Ⅲ）

(回答校数=17)

項目	回答数	%
実習報告書・報告会を通じた先輩からの情報提供	1	5.9%
施設職員による講話	2	11.8%
視聴覚教材の活用	4	23.5%
施設見学やボランティアの導入	2	11.8%
科目間連携	1	5.9%
事前学習課題の実施(グループ)	4	23.5%
事前学習課題の実施(個別)	2	11.8%
個別対応	3	17.6%
その他	1	5.9%

※複数回答あり

「視聴覚教材の活用」「事前学習課題の実施（グループ）」「個別対応」など、保育実習Ⅰの事前指導で工夫されている項目が同様に見られた。「事前学習課題の実施（個別）」に分類した工夫のなかには、保育実習Ⅰの実習記録を書き直し、施設保育士としての配慮への気づきを促す取り組みもみられた。

## (6) 保育実習指導Ⅲ・事後指導について(自由記述)

## 【設問】

2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(6) 保育実習Ⅲの事後指導の内容・方法についてお伺いします。

③ 事後指導において、保育実習Ⅲとして特に重要視していることを3つ、欄にご記入ください。また、その指導内容について具体的な取り組みがあれば、ご記入ください。

## ① 事後指導において、特に重要視していること

保育実習Ⅲを実施している22養成校のうち、19校から回答が得られた。表28は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表28 事後指導において重要視していること(保育実習Ⅲ)

(回答校数=19)

項目	回答数	%
課題の明確化	3	15.8%
実習の振り返り	4	21.1%
子ども・利用者の理解	1	5.3%
進路指導	2	10.5%
後輩への情報提供	4	21.1%
保護者理解	2	10.5%
専門性の理解	3	15.8%
その他	1	5.3%

※複数回答あり

「実習の振り返り」「後輩への情報提供」「課題の明確化」など、保育実習Ⅰの事後指導で重要視している項目が同様に見られた。その中で、保育実習Ⅰとは異なる項目として「保護者理解」(2件、10.5%)、「専門性の理解」(3件、15.8%)が見られた。

## 【設問】

## 2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(6) 保育実習Ⅲの事後指導の内容・方法についてお伺いします。

- ④ **事後指導**において、保育実習Ⅲとして特に課題としていること（指導のしにくさを感じていること、取り組むべきだと考えているが実現できていないこと等）を3つ、欄にご記入ください。また、可能であれば、その課題について具体的にご記入ください。

## ② 事前指導において、特に課題としていること

保育実習Ⅲを実施している22養成校のうち、14校から回答が得られた。表29は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表29 事後指導において課題としていること（保育実習Ⅲ）

(回答校数=14)

項目	回答数	%
実習内容	4	28.6%
実習指導の時期	2	14.3%
学生指導	4	28.6%
実習後の課題設定	3	21.4%
進路	3	21.4%
その他	1	7.1%

※複数回答あり

「実習内容」「学生指導」など、保育実習Ⅰの事後指導で課題としている項目が同様に見られた。その中で、保育実習Ⅰとは異なる項目として「実習後の課題設定」（3件、21.4%）、「進路」（3件、21.4%）が見られた。

## 【設問】

## 2. 保育実習Ⅲについてお伺いします。

(6) 保育実習Ⅲの事後指導の内容・方法についてお伺いします。

- ⑤ 事後指導において、保育実習Ⅲとして、学生が意欲的に自己課題をみつけるため、施設の理解を深めるため等、工夫されていることがありましたら、ご記入ください。

## ③事後指導において、工夫されていること

保育実習Ⅲを実施している22養成校のうち、12校から回答が得られた。表30は、得られた回答を項目ごとにまとめたものである。

表30 事後指導において工夫されていること（保育実習Ⅲ）

(回答校数=12)

項目	回答数	%
実習報告会	3	25.0%
グループワーク	4	33.3%
ボランティアの推奨	1	8.3%
自己評価	1	8.3%
実習報告書	3	25.0%
その他	2	16.7%

※複数回答あり

「グループワーク」「実習報告会」「実習報告書」など、保育実習Ⅰの事後指導で工夫されている項目が同様に見られた。「ボランティアの推奨」のほかに、「その他」として「実習日誌、自立支援計画の書き直し」「文献等の紹介」といった、実習後も学び続けられるように配慮した取り組みもみられた。

## (7) ボランティア活動について

## 【設問】

(1) 施設実習指導の一環として、学生はボランティア（実習先施設でのボランティア、施設以外での催し【例：障がい児の親の会主催のイベント】等でのボランティア等）を行っていますか。選択肢の中から選んで○をつけてください。（複数回答可）

1. ボランティアを行っていない
2. 学生が個人でボランティアを行っている
3. 学校が体制を整えてボランティアを行っている

また、ボランティアを行っている場合には、可能な範囲でかまいませんので、その施設種別や催しについてご記入ください。

## ① ボランティア実施の有無（選択肢、複数回答有）

それぞれの選択肢に対する 41 養成校からの回答を表 31 に示す。「学生が個人でボランティアを行っている」が一番多く選択されていた。また、個人及び学校が体制を整えているとする二つの選択肢に回答した養成校も 5 校あった。

なお、今回のアンケートの趣旨である施設実習の一環としてはボランティアを実施していないと回答しつつ、教員免許・保育士資格取得を目指す学生全てに子どもに関わるボランティアを勧め、希望者には紹介を行っているとの自由記述も見られた。

表 31 ボランティア実施の有無

(回答校=41 校)

項目	回答数	備考
ボランティアを行っていない	12	
学生が個人でボランティアを行っている	22	両方に回答： 5 校
学校が体制を整えてボランティアを行っている	12	

※複数回答有

## ② ボランティア先種別等（自由記述、複数の種別に関する記述有）

ボランティアを実施していた 29 校のうち、27 校から回答があった。回答に具体的な種別が言及されていた施設について回答から 15 の分類を作成し、また、実習先等の回答については「実習先」でとされていたり回答で触れられなかったりしていない場合には実習先（詳細不明）とする分類を作成し、合計 16 の分類に回答を振り分けた。①「個人でボランティアを行っている」及び「学校が体制を整えてボランティアを行っている」の全ての回答の集計、②「学校が体制を整えてボランティアを行っている」のみの集計を表 32 に示す。

「障害者施設」が最も多く、次いで、「障害児施設」、「児童養護施設」の順に多かった。例えば、「障害



## (7) ボランティア活動について

者施設と障害児施設」、「子育て支援事業と障害者施設と障害児施設」、「児童館と保育所と幼稚園」といったように、複数の種別の施設でボランティアを実施している養成校が18校あった。一番多かった養成校では、6つの種別の施設等でボランティアが行われていた。

表 32 ボランティア先種別等

(回答校数=27)

記述された内容の分類	個人・学内体制有 (27校)	(%)
障害者施設	18	66.7
障害児施設	9	33.3
発達支援センター・施設	6	22.2
養護学校・特別支援学級	2	7.4
乳児院	1	3.7
児童養護	6	22.2
児童自立支援施設	2	7.4
母子生活支援	1	3.7
子育て支援事業	1	3.7
学童保育	2	7.4
児童館	2	7.4
高齢者福祉施設	1	3.7
保育所	3	11.1
幼稚園	1	3.7
避難者学習支援	1	3.7
おもちゃライブラリー	1	3.7
不明	5	18.5
回答数合計	62	

※複数回答有

## ③ ボランティア内容 (自由記述、複数の内容に関する記述有)

ボランティアを実施していた29校のうち、27校から回答があった。回答として書かれていたボランティア内容から8つの分類を作成し、特に内容に言及されていない場合のため内容不明の分類を加え、全部で9つの分類に回答を振り分けた。

①「個人でボランティアを行っている」及び「学校が体制を整えてボランティアを行っている」の全ての回答の集計、②「学校が体制を整えてボランティアを行っている」のみの集計を表33に示す。

「イベント・行事」への運営や参加が最も多く、その他の分類に入る回答については、どれも多くはないだろう。しかしながら、依頼の内容に合わせて学内で調整する中で、養成課程に入るまではなかった人間関係を広げたり、保育技術等につながっていったりするきっかけになる可能性もあるだろう。

表 33 ボランティア内容

(回答校数=27校)

ボランティア内容の記述内容の分類	個人・学内体制有 (27校)	(%)
イベント・行事	22	81.5
学童保育等における学習支援	2	7.4
預かり保育	1	3.7
児童デイ	2	7.4
訪問	1	3.7
学童保育	1	3.7
イベント開催	1	3.7
依頼内容に合わせる	1	3.7
内容不明	5	18.5

※複数回答有

## 【設問】

(2) 施設実習指導の一環として、ボランティアを推奨するためにどのような体制を整えていますか。

選択肢の中から選んで○をつけてください。(複数回答可)

また、可能であれば、その具体的な取り組みについてご記入ください。

1. 学内にボランティアセンターなどを設け、担当職員がボランティアに関する手続き等を行っている
2. ボランティア希望学生に対して、個別に教員が対応している (推薦書を書く等)
3. 学校としてボランティアサークルを設けている (教職員が顧問等になっている)
4. 学内に学生主体のボランティアサークルがある (教職員は直接関わっていない)
5. ボランティア、催し等の情報を学生に提示している
6. 施設実習に関わるボランティアを授業として実施 (単位化) している
7. その他 (「具体的な取り組み」の欄にご記入ください)

※可能であれば、以下の欄に具体的な取り組みをご記入ください

## ④ボランティアを推奨するための体制 (選択肢、複数回答有)

ボランティアを実施していた 29 校からの回答を表 34 に示す。1 つの選択肢を選んだ養成校は 17 校、2 つの選択肢を選んだ養成校は 4 校、3 つの選択肢を選んだ養成校は 6 校、4 つの選択肢を選んだ養成校は 1 校、1 校が回答無であった。

最も多かった回答は、「ボランティア、催し等の情報を学生に提示」であり、「ボランティア希望学生に教員が個別に対応 (推薦状等)」といった対応もあった。

表 34 ボランティアを推奨する体制

(ボランティア実施=29校)

項目	回答数	(%)
1 学内のボランティアセンター設置・担当職員による手続き	6	20.7
2 ボランティア希望学生に教員が個別に対応(推薦状等)	7	24.1
3 学校がボランティアサークルを設置(教員が顧問)	4	13.8
4 学内に学生主体のボランティアサークルがある(教員は関与なし)	3	10.3
5 ボランティア、催し等の情報を学生に提示	24	82.8
6 施設実習に関わるボランティアを授業として実施(単位化)	2	6.9
7 その他	3	10.3

※複数回答有

## ⑤ボランティア推奨における具体的取り組み(自由記述、複数の具体的取組について記述有)

実習指導の一環としてボランティアを実施している養成校 29 校のうち、回答として書かれていた内容から 8 つの分類を作成した。回答をそれぞれの分類に振り分けた。集計結果を表 35 に示す。

「教員から学生に声かけ等」による働きかけや誘いかけをしていることが比較的多く見られた。また、「教員から学生に声かけ等」に加え、「チラシの配布、掲示板に掲示」や「校内オリエンテーション」を並行して行っている養成校もあった。

表 35 ボランティア推奨における具体的取組

(ボランティア実施=29校のうち 16校からの回答)

記述内容の分類	記述数
教員が学生に声掛け等	12
チラシの配布、掲示板に掲示	4
学内・学外の施設の活用	2
ボランティアを推奨・するよう指導	2
校内オリエンテーション	1
学生の希望を受けて依頼	1
実習後に学生が自分で依頼	1
ボランティア先から学生の状況を聞く	1

※複数回答有

回答されていた 16 校のうち、6 校からの回答において、ボランティアの教育的意義や期待について記述されていた(表 36)。施設での学びを得ることや、日誌を書かせて日誌の書き方を学生が学べるようにする、学生のボランティア先を実習で配属するといった事前学習に資する目的をもつこと、ボランティアにより学生の施設イメージが良くなることや高い意識をもち活躍できる人材の育成に繋がること、就職に繋がっていくことなど、学生の新たな学びや職場選択につながっていくことが期待されていた。

表 36 ボランティアの教育的意義や期待

(回答のあった 16 校のうち 6 校で言及)

記述内容の分類	記述数
学生の学びにつながる	2
日誌の書き方の学びにつなげる	1
イメージが良い方向に変化する	1
高い意識を持って活躍できる人材の育成	1
ボランティア先に実習配属	1
学生がレポートを作成する	1
就職につながる	1

※複数回答有

## 【設問】

(3) 設実習指導の一環としてのボランティアに参加しているかどうか、学生の動向をどのように把握されていますか。選択肢の中から選んで○をつけてください。

また、把握されている場合には、把握の方法についてご記入ください。

1. 把握していない
2. 把握している (以下の欄に、把握の方法について具体的にご記入ください)

## ⑥ 学生動向の把握 (選択、単一回答)

ボランティアを実施している養成校 29 校からの回答は、「把握していない」が 7 校、「把握している」が 22 校であった (図 9)。

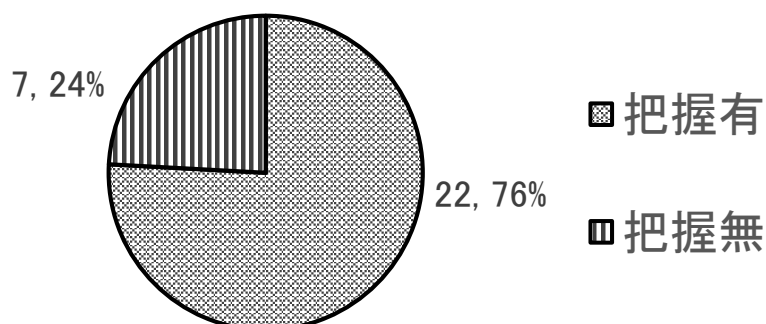


図9 ボランティアにおける学生動向の把握

## ⑦把握の具体的方法（自由記述、複数の具体的方法について記述有）

学生の動向を把握していると回答のあった 22 校の教員が記した把握の具体的方法について回答から 5 つの分類を作成し、各分類に回答を振り分けた。その結果、比較的多かったのは学生に「報告書」の提出を求める方法であった（表 37）。

表 37 学生の動向把握の具体的方法

(ボランティア実施 29 校のうち把握している養成校=22 校)

把握方法として記入された内容の分類	回答数	(%)
事前の届け出	4	17.4
報告書(レポート、内容・時間数等の証明書含む)	7	30.4
学生への口頭での確認	9	39.1
先方からの依頼文・学長決済	2	8.7
教員による引率	1	4.3

※複数内容の記述有

ボランティアについては、施設実習の授業の一環として実施している養成校も 29 校と 7 割程度であったが、授業以外にも、養成校の教育方針に基づいてボランティア推奨するなど、どのようにボランティアを捉えるかについての考え方はそれぞれであろう。ボランティアの内容としては、障害児者の施設における夏祭り等のイベントについての回答が比較的多かった。ボランティアに臨んでいる学生の動向を把握する養成校が 7 割以上である。ボランティアに参加した学生が、その経験をどのように生かし、自らの世界を広げ、実践に繋げていけるようになっていくのかについては、今後、検討の余地があるだろう。

### 【まとめ】

#### ①保育実習Ⅰ（施設）

保育実習Ⅰ（施設）の実施時間に関しては、事前指導、事後指導ともに正規時間内では全体に向けた指導が多く行われていた。

指導の方法は、講義型の事前指導が突出して多く、事後指導では、個別面接が一番多い傾向がみられた。

指導の内容に関しては、事前指導においては、外部指導講師による講話や施設への見学を取り入れることにより施設実習の意義と施設への興味関心を高める指導が多く行われていた。また、実際に施設に行った際のマナーや実習記録の書き方と言った、施設実習の実際に関する内容が多く行われていることが示された。一方、事後指導では、実習内容の振り返りを行い、種別の異なる施設を理解するための工夫をしていた。

しかし、事前指導、事後指導の時間が不足していることや、施設実習に対する学生のモチベーションが低くその学生への対応に苦慮していること、実習先によって、実習内容に偏りがあり、事前指導、事後指導の難しさが課題としてあげられた。

#### ②保育実習Ⅲ

保育実習Ⅲの実施状況は、22校で実施しており、岩手県と福島県では全校で実施していた。保育実習Ⅲの実施時間に関しては、保育実習Ⅰ（施設）と同様に事前指導、事後指導ともに正規時間内では

全体に向けた指導が多く行われていた。

また指導の方法は、講義型の事前指導が多く、事後指導では、個別面接が一番多い。

さらに指導の内容に関しては、保育実習Ⅰ（施設）とは異なる内容が、事前指導、事後指導ともにあげられていた。事前指導では、保育実習Ⅰ（施設）を踏まえて目標を設定、守秘義務の理解と徹底、自立支援計画の立案などより高い専門性を意識した指導内容となっていた。また事後指導においても実習で体験したことをグループや個別指導の中で振り返り、専門性の理解を意識した内容となっていた。

#### ③ボランティア

ボランティアに関しては、体制を整えていると回答があったのは12校であった。

実際に体制を整えている養成校では、ボランティア先として、障害児・者施設が多く、参加内容はイベント・行事（夏祭り、お祭り、運動会、スポーツ大会、文化祭、イベント補助、夏休み旅行の引率など）が多いことが示された。

### 【今後の課題】

アンケート調査の結果をもとに、これまで作成してきた「実習指導ガイドライン（東北ブロック版）」を補完する形で、「施設実習指導に関するガイドライン」を作成する。